



はじめに

コロナが流行する前と後で、社会全体が大きく変わりましたが、三瓶地域も例外ではありません。様々な地域行事がコロナをきっかけに縮小したり、なくなったりしています。大人からすれば「仕方がない」で済むかもしれませんが、私は、子ども時代に楽しかった思い出があるのとないのでは、その後の人生に大きな影響があるのではないかと考えています。

かつて北三瓶では、毎年、PTAの奉仕作業として通学路の草刈りをした後に、大人も子どもも一緒にBBQをしたり、肝試しをしたりしていました。もちろん指導員や学園生も参加し、地域の皆さんと交流をしていました。コロナ以降はなくなってしまいましたが、やはりこうした交流活動は大切にしたいと思い、PTAとも相談して、10月5日には、センターとPTAの共催でそば打ちを行い、その後に懇親会や花火などをしました。学園生親子を含め40名以上の参加者で大いに盛り上がり、改めて子どもたちにとって（もちろん大人にとっても）、こうした体験や思い出は大切だなあと実感することができました。

北三瓶地域は、子どもたちの人数も決して多くはありませんが、だからこそみんなでできるこうした活動を、これからもセンターとして、地域として、大切にしていきたいと思います。

稲井 祐介

活動カレンダー

9月16日(月)	センター入り、より作り	10月4日(金)	センター入り
9月21日(土)	ソロキャンプにチャレンジ ～練習編～	10月5日(土)	親子そば打ち PTA懇親会
9月23日(月)	稲刈り(徳原)	10月6日(日)	親子三瓶登山
9月24日(火)	農家入り	10月12日(土)～13日(日)	酪農体験
		10月14日(月)	サビキ釣り

より作り 9/16 (月・祝) 晴れ時々雨

学校の田んぼの稲刈りに使う“より”作りをしました。この日は、地元の子も数名来て一緒にやりました。目標本数は、継続生は70本、新入園生の小学生は30本、中学生は50本です。昨年のはかまをとり、少し叩いて準備をしたらいよいよわらを縛ります。初めての子はなかなかコツがつかめず苦労している子もいましたが、継続生は慣れた手つきでどんどん縛っていききました。淡々とした作業にみんな黙々取り組み、午前中の2時間～3時間ほどで半分ぐらいの子が目標本数を達成しました。残っている子たちも午後にも作業をし、みんな目標を達成しました。多めにやった子や、地元の子たちも含めると、全部で1050本ほど出来ました。



ソロキャンプにチャレンジ～練習編～ 9/21 (土) 雨

今回のソロキャンプは悪天候によりあえなく中止となってしまいました。ソロキャンプの代わりに、裏の車庫で雨から逃れつつ、2グループに分かれ、「ひも切り式火おこし」と「グループ調理」の体験をしました。ひも切り式では2人で協力して棒を回転させ、摩擦で火種をつくります。はじめは苦戦しましたが、チームごとに火おこしに成功していました。火が起きたら、食材をもとに事前に考えた献立で、両チームともに凝った内容の夕食を作っていました。



た。それぞれソロとは対局のチームプレイが求められる活動でしたが、火おこしや調理の幅の広がったいい練習の機会になりました。

稲刈り (徳原の田んぼ) 9/23 (月・祝) AM 晴れ

徳原の田んぼの稲刈りをしました。手刈りの作業は学校の田んぼで体験したため、徳原の田んぼは機械で刈りました。まず、収穫祭にお供えする稲をそれぞれ手で刈りました。そして、その後はコンバインで刈りましたが、全部コンバインで刈ってしまうと来年のより作りのための藁がないので、その分の藁分だけはバインダーで刈り脱穀をしました。機械での作業ということで、あっという間に作業は終わってしまいました。全部収穫した後は農家さんの乾燥機にかけてもらいましたが、今年のお米の量は昨年よりは少なかったようです。



出来たばかりのお米を10月頭のセンター入り期間に食べましたが、みんな「新米は美味しいね」と言って食べていました。

親子そば打ち 10/5 (土) 晴れ

この日は、学園生、保護者、北三瓶小中学校のPTA子ども達も集まり、みんなでそば打ち体験をしました。まずは講師の方にデモンストレーションをしていただき、その後それぞれグループに分かれてそばを打ちました。そば粉十割でのそば打ちでしたが、講師の方に指導していただき、上手に打つことができました。打ったそばは、みんなで夕食にいただきました。自分の打ったそばは細かったり太かったりと形はバラバラでしたが、地元の粉で打った十割のそばは味や香りがしっかり感じられて、とってもおいしかったです。おかわりには講師の方が打ったそばがあり、みんな「プロはやっぱり違う」とたくさんおかわりしていました。



夜には子ども達は地域の子も学園生もみんな花火大会。大人はみんなで懇親会をしてセンターと地域の保護者との親睦を図りました。

親子三瓶登山 10/6(日) 曇り

前日に引き続き、親子活動として三瓶登山を行いました。標高 1,126m (三瓶山麓には温泉が湧き出ているので、「1126 (イイフロ)」と覚えます) の男三瓶を目指して、ぐんぐん歩くチームとゆっくり歩くチームに分かれて登りました。道中は三瓶の自然に目を向けたり、久しぶりの親子の会話を楽しんだりしながら登り、2時間足らずで山頂に着きました。山頂ではススキの原が一面に広がり、

疲れが吹き飛ばすくらいにすがすがしい気持ちになりました。昼食休憩を含め、しばらく山頂でゆっくり過ごし、登りとは違うルートで下山しました。下山後は、そのまま三瓶温泉へ直行。みんなで温泉に浸かりながら、登山の疲れを癒しました。

天候が心配でしたが、雨に打たれることもなく、みんな無事に歩ききることができて、達成感や充実感を感じることができました。



酪農体験 10/12(土)~13(日)

三瓶山の周りには数軒の酪農家さんがいます。センターで毎日飲んでいる牛乳も直接酪農家さんから生乳をもらい沸騰しているものです。そんな酪農家さんの仕事を知るために、丸々2日間、酪農体験をしました。

7日(月)の夜は、お世話になる酪農家さんの福間聖治さんに来て

もらい事前ミーティングをしました。仕事の内容や、牛について、牛乳が食卓に並ぶまでなどを教えてもらいました。中3が中心となり昨年の経験を活かしながらか話してくれました。

当日は、朝の6時半から夜の9時まで丸々2日間の作業をしました。朝と夜は、牛舎の掃除、えさやり、糞尿の片付け、搾乳を体験し、昼間は

外作業を色々やりました。継続生は、昨年の経験から色々なことがよく分か

っていたので、継続生が新入園生に教えながらの作業になりました。搾乳では牛のためにも仕事は速やかに行わなければなりません、大きな牛に驚きなかなか思うようにできません。でも、継続生を中心に教えてもらいながらみんな頑張って作業をしていました。牛以外の仕事では、屋根張をしたり冬が来るのでサッシを洗って牛舎にはめ込んだり、牛以外の仕事もたくさんあることを知りました。長い時間の作業でしたが、みんな最後までやり遂げました。



サビキ釣り 10/14(月・祝)

豆アジを釣りに、静間町の和江漁港にサビキ釣りに行きました。前日まで2日続けての酪農体験だったこともあり、この日の釣りは自由参加にしましたが、7名の学園生が参加しました。釣り場に到着するとバディに分かれ釣りの準備をし、早速釣りに取り掛かりました。10時過ぎからの遅めのスタートだったので爆釣というほどではありませんでしたが、豆アジの他にもイシダイの稚魚やカワハギ、ヒラメも釣れ、終わるころにはなかなかの釣果となっていました。釣れた魚は自分たちで捌いて唐揚げにして夕食に頂きました。残った豆アジのから揚げは翌日南蛮漬けにして朝食に頂き、海の恵みを余すことなく堪能しました。



＼あっちっち、2024 夏／

当地は10月に入ったとたん、7月から続いた猛暑がうそのように涼しくなりました。とはいっても、日中は30度近くになる日もあり歴史的な暑い夏の残り火があると言えるかもしれません。つけている手帳をみると、7月25日から8月24日午後まで晴れ。この間、夏休みの短期山村留学を行っていて、全国各地から参加してくれた子どもたちは、高原だから少しは涼しいだろうと期待していたかもしれませんが、暑さが一番の思い出になった子がいても不思議ではないくらいの暑さ続きだったと記憶しています。初日のはじめの会で、「暑いけれど、午後に通り雨があたり、夕立ちが来る日もあるよ」と話しましたが1回もなかったことは驚きです。一雨降ったあつたあと、静まりかえる一瞬のあとにただけしいセミしぐれが始まるのが夏の風物詩だったはずなのに……。今回は、今年の夏から初秋にかけてのレポートです。

いま振り返って、どうしても不思議なことはひと月も雨が降らなければ、草の成長も遅いはずですがそうは問屋がおろさない、今年ほど草の成長が早かった年はなかったです。休日は草刈りばかりしていて、会う人すべてのあいさつ言葉は「草刈りでやれんが〜」でした。草も季節ごとに生える草や成長スピードが違うことがわかっていますが、そのペースに合わせた計画的な草刈りができなければ、大きな代償を払うこととなります。わたしは、夏休み期間中に草刈りをする時間がとれず、そのついで草ぼうぼうになった6反の休耕田を8月下旬に刈払機で手刈りしたときは、何度か脱水になりました。その草刈り作業も例年と大きく異なり、今年は、30分から40分刈っては30分の休憩をとらざるを得ず我ながら今でも驚いています。「体がゆうことをきかなかった」から作業効率の悪さも仕方なかったです。

一方、日照りが続いたのか、降水量がとても少なかったのか、歴史的な高温だったのか、その原因は不明ですが例年と異なる現象も出ました。稲やソバの背丈がとても短かかったです。稲刈り時分のコシヒカリの背丈は60cm足らずでコンバインでは刈りとった稲束が短すぎて脱穀部に持ち上がらない珍現象が発生。ソバは40cmに満たずに花が咲いている光景をたくさん見ました。三瓶山周辺で池田でも同じ現象を見ましたが志学は例年どおりなのでこれも不思議でした。自宅でも人生初めての珍現象が発生。15キロ単位で精米した米を涼しい部屋に置いてその都度研いで炊きますが炊いた米が数時間で変色しやたら粘着度が高くなりました。常温で置いているカレールーやチョコレートがとけたことには声が出ました。いつの新聞か忘れましたが、海では海水温の上昇にともない「磯焼け」で海藻やそれをエサにするサザエやウニなどの貝類が少なかったとの新聞記事もありました。さかのぼること、6月中旬から7月中旬頃に里山で実をつけるキイチゴやグミ、ヤマモモ、クワの実今年は何れもきわめて実が少なかったですが、夏から秋にかけての異変の予兆だったのかも知れません。

「くにびき通信」2024年9月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター バックナンバー
公式ホームページ

〒694-0002 鳥根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp